

## 交通事故の怖さと交通ルールについて

玉川中学校 2年 小泉 桜花

私たちの生活に、交通は欠かせないものです。学校へ行くときや買い物に行くとき、友達と出かけるときなどに、私たちはバスや電車、自転車、そして車などさまざまな交通手段を使っています。すごく便利で私たちの生活を支えてくれる一方で、そこには常に交通事故という危険が潜んでいます。毎日のようにテレビや新聞で交通事故のニュースを目にしますが、その多くは少しの油断やルールを守らなかったことなどで起こっています。私は、交通事故の怖さと交通ルールを守る大切さについて改めてきちんと考えてみたいと思います。

まず、交通事故が怖いと思ってしまうのはなぜでしょうか。それは、事故によって人の命が失われたり、大きなケガをするかもしれないからです。たとえば、車を運転していた人が少しスピードを出しすぎただけで、歩行者をはねてしまうことがあります。あるいは、歩行者がスマートフォンなどを見ながら道路に飛び出して事故にあってしまうこともあります。どちらも少し気をつけていれば防げた事故です。しかしその一瞬の出来事が、被害者や加害者の人生をゆるがせてしまうのです。だからこそ、交通事故はとても恐ろしいものなのです。

また、交通事故は体のケガだけでなく、心の傷も残します。事故で大きなケガをした人は、その後の生活が大きく変わってしまいます。自由に歩けなくなったり、事故のトラウマで道路を渡れなくなったりすることもあります。そして加害者になってしまった人も、強い罪悪感を抱えて生きていくことになります。あの時スピードを出さなければ、ちゃんと信号を守っていたらと後悔しても、時間を戻すことはできません。交通事故は一瞬の出来事ですが、その一瞬の出来事は一生続くこともあるのです。

では、どうすれば交通事故を防げるのでしょうか。それは交通ルールを守ることです。当たり前と思うかもしれませんが、でも、交通ルールはみんなの命と安全を守るためにあるものです。赤信号で止まること、シートベルトをつけること、自転車は左側を走ること。どれも危険を避けて、事故を防ぐために決められている大切なルールです。だから少しくらいいいと思って破ってしまうと、大きな事故につながるのです。

交通ルールを守ることは、自分の命を守ることであり、他の人の命を守ることであります。たとえば、自転車でスピードを出しすぎれば、歩行者にぶつけてケガをさせてしまうかもしれません。逆に歩行者が信号を無視して道路を渡れば、車の運転手を驚かせて事故を引き起こしてしまうかもしれません。道路はみんなで使うものだからこそ、互いに思いやりを持ってルールを守ることが大切なのです。

しかし実際には、少しぐらいなら大丈夫と考えてルールを軽く見てしまう人がいます。特に最近多いのが「ながらスマホ」です。スマートフォンを見ながら運転したり歩いたりしていると、前をよく見ていないので事故にあいます。自分だけではなく周りの人を危険に巻き込んでしまうので、絶対にしてはいけません。

交通事故をなくすためには、みんなの意識が大切です。車を運転する人はもちろん、私たち中学生や小学生、そしてお年寄りまで、すべての人が自分は事故を起こさない、巻き込まれないという気持ちを持つ必要があります。学校で学ぶ交通安全の授業や、家族からの注意も大切ですが、最後は一人一人の心がけがすべてです。

交通事故の怖さと交通ルールの大切さはつながっています。事故の悲しさを知ることでルールを守る気持ちが強くなり、ルールを守ることで事故を防ぐことができます。みんなが安心して生活できる社会にするために、私たちは一人一人が責任を持って行動しなければなりません。交通事故は誰にでも起こりうることで、だからこそ、私たちは常に意識して行動する必要があります。

便利で快適な社会だからこそ、その裏にある危険を忘れてはいけません。交通ルールを守り、思いやりを持って行動をすることで、交通事故のない明るい未来をつくることができると私は信じています。